



静岡県教育委員会
教育広報紙

Eジャーナルしずおか

平成29年(2017年)
10月5日
木曜日
第192号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3134 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

自分たちに何ができるのか? 復興へ向けがんばっている被災地を訪問してきました。

この夏、本県高校生が東日本大震災の被災地である岩手県山田町・大槌町を、中学生が熊本地震の被災地である嘉島町・南阿蘇村・熊本市を訪問し、実際に「見て・聞いて・触れる」防災学習をしてきました。

津波被害からの復興(岩手県山田町・大槌町)

本県高校生33人が、8月7日から10日まで、被災地訪問研修として、岩手県山田町・大槌町を訪問しました。最初に訪れたのは、今年3月に静岡でも交流を行った県立山田高校です。同校の生徒からは、震災発生から今に至るまでの山田町の移り変わりや学校での復興への取り組みなどについて発表がありました。本県高校生との意見交換では、高校生として、震災から学んださまざまな教訓を、どのように後世に伝えていくことができるかなどを話し合いました。続いて訪れた町立「鯨と海の科学館」では、湊館長から、震災で展示施設が全壊してから、今年7月、約6年4か月ぶりに再オープンするまでの道のりをお話いただきました。

大槌町では、沿岸部の復興の様子や海岸に取り残されている「ずれたままの防潮堤」など、被災地の「いま」を実際に目にする事ができました。



山田高校の生徒と意見交換しました



旧大槌町役場を視察しました

避難所運営を自主的に支援(熊本県嘉島町)

小山町立北郷中学校と掛川市立大須賀中学校の生徒10人が、8月21日から23日まで、熊本県(嘉島町・南阿蘇村・熊本市)を訪問しました。生徒たちが最初に訪れた嘉島町立嘉島中学校は、今年3月に行った防災交流事業で、北郷中学校と大須賀中学校を訪問してくれた学校です。今回の交流では、3校の生徒がグループに分かれ、災害時判断ゲームを行いました。

「避難所支援では、中学生にもできることはある。私たちが被災者に元気を与えることができる」(嘉島中学校の生徒)。実際に被災し、支援活動に関わった生徒たちの言葉は重く、本県の中学生にとって大変貴重な経験になりました。

嘉島町役場では、実際に避難所の運営に携わった担当課長から、地震発生から自主的な運営となるまでの避難所の状況について講話をいただき、避難所運営の難しさについて理解が深まりました。

熊本地震の傷跡を視察(熊本県南阿蘇村)

南阿蘇村では、地震に伴う土砂災害で阿蘇大橋が崩壊し、孤立状態となりました。今回の訪問では、地元の東海大学の学生に、地震の傷跡が生々しく残る村の中を案内していただき、発災当時、地元住民と一緒にいった救助活動について詳しく教えていただきました。

みんなに伝えよう

今回被災地を訪問した生徒たちが、学校や地域の防災リーダーとなる第一歩として、この研修を通じて得たものを家族や友人、近所の人に機会あるごとに伝え、学校や地域の防災力の向上につながることを期待しています。

【健康体育課】



嘉島中学校の生徒と災害時判断ゲームを行いました



南阿蘇村を学生ボランティアに案内してもらいました

たったこれだけのことで
何でもかまて怒るの?
ちょっとの我慢が
どうしてできないの?

「難しい子」への効果的な支援の方法と理解のヒント

当たり前の注意をしているだけなのに逆ギレしてさっぱり言うことを聞いてくれない。そんな子どもに手を焼いたことはありませんか?教育や福祉の現場にいて、そんな「難しい子」に出会うことがあるでしょう。

富士市にある県立の児童心理治療施設「吉原林間学園」は、今年7月、そうした「難しい子」への効果的な支援の方法について、学園での実践を基にまとめた「興奮しやすい子どもには愛着とトラウマの問題があるのかも」を発行しました。今回、この本の執筆者の一人であり、吉原林間学園の治療指導課長である市原真記さんに、お話を伺いました。



吉原林間学園 治療指導課長
市原真記さん

吉原林間学園の子どもたち

吉原林間学園は、富士市にある県立の児童心理治療施設です。小学1年生から中学3年生まで、静岡県内全域から40人の子どもたちが児童相談所の措置により生活しており、園内には学校も併設されています。入園児の多くは過去に何らかの虐待を受けたり、発達障害の傾向を持っていたりします。

吉原林間学園にいる子どもたちは、ふとしたことから過去の記憶がよみがえり、興奮して暴れてしまったり、固まって動けなくなってしまうことがあります。こうした反応はいずれも虐待のトラウマによるものです。

異常か、事情か

ちょっとしたことで過度に興奮する子どもを目にすると、人はつい「おかしい、異常だ」と捉えがちです。しかしそう思うことは、相手の理解につながるでしょうか。むしろ、相手を遠ざける気持ちが強まりはしないでしょうか。大切なのは、「その子がうまくやれない理由は何だろう?」「いったいこの子の過去に何があったんだろう?」と、その子が今うまくやれない「事情」を解き明かそうとする視点ではないでしょうか。

「うるせえ!」と「しまった!」

すぐ興奮してしまう子どもを、「コラ!」と強く叱っても、「ごめんなさい」という素直な反応が返ってくることはまれでしょう。怒られて「しまった!」と反省できるためには、子どもがその大人のことを好きで、頼りにしているという関係が不可欠です。大好きなお母さんが悲しむこと、頼りにしているお父さんが怒ることが想像できるからこそ、注意されたときに子どもは「しまった!」と反省し、罪悪感を抱きます。いつも自分のことを大切に守ってく

る大好きな大人、という前提がなければ、正当な注意であっても子どもは「うるせえ!」と反感を覚えるでしょう。



威力よりも魅力

そんなとき、即座に言うことを聞かせようとして大人はしばしばより強く、より激しく怒りがちです。しかし、威力、迫力で子どもを従わせようとするほど、子どもとの関係は悪化します。虐待的な親子関係はしばしばこの悪循環にはまっていますが、同様なことは学校や施設でも常に起こるリスクがあるでしょう。力と言うことを聞かせるのではなく、大人が子どもから頼りにされる存在になること。いわば、「威力」より「魅力」で子どもを引っ張りましょう。

じゃあどうするの?

吉原林間学園の基本目標は、「みんな楽しく」です。誰もが安心して楽しく過ごせること。この目標に向かって、これまで重ねてきたさまざまな試行錯誤から、本書が生まれました。この本の中では、注意をするときにはいわずらに深追いせず「人を変える・時を変える・場所を変える」(3つの変える)、やたらと大声で説

教するのではなく、簡潔に穏やかに伝えるなど、トラウマを負った子どもに害になりにくく、より効果的に支援する工夫をまとめています。

最後に

「難しい子」に対応していると、腹が立ったり不安を覚えたり、「なんで分かってくれないの?」と悲しくなったり、さまざまな感情が湧いてきます。それは、過酷な環境を生き抜いてきた子どもたち自身が、それまでに抱えてきたり、あるいは抱えきれずに持て余したり、そもそも感じることを避けてふたをしてきた気持ちであることがしばしばです。対応する大人が、自分の中に湧いてきたこれらの感情を、まずは正直に受け入れ、認めること。支援者としての自分を責めず、おごらず、冷静に自分と相手を見つめることが、効果的な支援の第一歩ではないかと、日頃の反省を込めて思います。



「興奮しやすい子どもには愛着とトラウマの問題があるのかも」
遠見書房・1,200円+税

〈取材を終えて〉

子どもたちへの支援について、自分の信念を持って話されている市原さんの姿が印象的でした。本書に基づいた研修会の実施について、市町の教育委員会単位などある程度の規模であれば都合のつく限り対応していただけたとのこと。研修会の開催については、吉原林間学園までお問い合わせください。

問 吉原林間学園 0545(35)0076

※本は書店やインターネットでお求めいただけます

実践NOTE 383

鈴木梅太郎博士と

ビタミンB1に地域を学ぶ

総合的な学習の時間の実践

牧之原市立地頭方小学校 教諭 山下 浩美



授業中の筆者

「梅太郎博士はどれくらい有名なのかな？」

梅太郎博士の銅像の写真を用意して、インタビュー開始です。



フラップボードと梅太郎博士の銅像の写真を用いた授業の様子

地頭方小学校出身でビタミンB1を発見した鈴木梅太郎博士は、地元の名士です。もちろん本校の子供たちにとっては「誰もが知っている偉人」です。ところが今年5月、近隣の小学校の5年生に梅太郎博士を知っているか聞いたところ、全体の約半数が、名前すら知らないという結果でした。これには私が担当する5年2組の子どもたちもショックを受けました。

最初は歩いている人たちに声を掛けることさえできなかった子どもたちでしたが、最後には積極的にインタビューができるようになり、活動そのものには満足感を感じているようでした。しかし、梅太郎博士を知っている子どもたちの中で梅太郎博士をもっと知ってほしいと思う気持ちがどんどん膨らみ、博士について調べる学習に拍車がかかりました。

菓子屋さんで相談したところ快い返事をいただきました。試作品を食べた改良し、「ビタミンB1地小ラッカセイサブレ」とネーミングした完成品ができました。

「好きです地小 やっぱ好きです地頭方」 この学習を通して、地域の偉人鈴木梅太郎博士の偉業、ビタミンB1ラッカセイサブレの製作、地域の人たちとの関わりなど、子どもたちが学んだことはたくさんあります。その中でも一番、子どもたちの心に残ったことは、「好きです地小 やっぱ好きです地頭方」という思いだったのではないのでしょうか。

「表現活動の充実を 目指す図工美術科の 授業づくり」 御殿場特別支援学校 教諭 神尾 裕

私は今年4月から再任用教員として、本校の小中、高等部の「図工美術授業アドバイザー」を務めています。授業アドバイザーといっても単に助言を与えるだけではありません。これまで美術教師として経験してきたことを少しでも後進に伝えることができればという思いから、可能な限り、他の先生方や子どもたちと一緒に活動するように心がけています。

一人一人の色彩感覚を発見 中学部2年生では赤青黄の三原色を基に色彩遊び、色彩構成を楽しみました。三原色の絵の具を混色することで色彩は無限に広がります。その色を使ってモチーフである花を色豊かに描いていました。さらに生徒たちは、三原色に黒や白を加え、それぞれオリジナルの表現方法や色彩感覚があることを発見します。色彩宇宙の中で夢中になって自分だけの花を表現する生徒たちの姿を見ることができました。

日常を表現する 高等部1年生ではモチーフに実際にあるものを選び、リアリティのある表現を目指します。4月、新入生には友達を描いてもらいました。緊張を少しでも和らげてもらうためです。「楽しんで描いてください。上手に描く必要はありません。むしろ下手な方が気持ちを素直に表現できるよ」私は作品の手直しはしないよ。自分で判断して描いて「私のこの言葉で生徒たちの緊張がほぐれていきます。画材はパステルのみ。今まで使ったことのない材料を使うことで「高校生になったんだ」と改めて実感し、新鮮な気持ちで表現することに取り組みます。

友達を描いた生徒の作品

「表現活動の充実を 目指す図工美術科の 授業づくり」 御殿場特別支援学校 教諭 神尾 裕

楽しい表現活動を大切にしていきます。そのため授業では喜んで活動できる環境づくり、興味を引くテーマ設定や画材の提供、そして何より、授業中授業アドバイザーを重要視してめています。

一人一人の色彩感覚を発見 中学部2年生では赤青黄の三原色を基に色彩遊び、色彩構成を楽しみました。三原色の絵の具を混色することで色彩は無限に広がります。その色を使ってモチーフである花を色豊かに描いていました。さらに生徒たちは、三原色に黒や白を加え、それぞれオリジナルの表現方法や色彩感覚があることを発見します。色彩宇宙の中で夢中になって自分だけの花を表現する生徒たちの姿を見ることができました。

日常を表現する 高等部1年生ではモチーフに実際にあるものを選び、リアリティのある表現を目指します。4月、新入生には友達を描いてもらいました。緊張を少しでも和らげてもらうためです。「楽しんで描いてください。上手に描く必要はありません。むしろ下手な方が気持ちを素直に表現できるよ」私は作品の手直しはしないよ。自分で判断して描いて「私のこの言葉で生徒たちの緊張がほぐれていきます。画材はパステルのみ。今まで使ったことのない材料を使うことで「高校生になったんだ」と改めて実感し、新鮮な気持ちで表現することに取り組みます。

友達を描いた生徒の作品



子どもたちと一緒に活動する筆者

老後のために、いま、できること。 i DeCo (イデコ)とは個人型確定拠出年金の愛称で、公的年金にプラスして個人で加入できる年金です。平成29年1月からこれまで対象外だった公務員も加入できるようになりました。 i DeCoでは定期預金、保険商品、投資信託を通して毎月5千円からと少額で積み立てが始められます。掛金は全額所得控除され、運用益も非課税、積立金を受給するときにも税制優遇があります。 注意すべき点は、①60歳まで原則引き出せない、②手数料がかかる、③積立金の運用は加入者自身の責任によって行われる、④受給の仕方によっては、課税対象額が発生することがある、ということ。 国民年金基金連合のホームページ「イデコガイド」で、制度の概要、金融機関や運用商品の選び方などが紹介されています。 老後のための財産形成には他にも、財産形成年金貯蓄、個人年金保険などさまざまな方法があります。それぞれのメリット、デメリットを理解した上で、選択、または組み合わせる利用していくとよいでしょう。

【福利課】

「学校運営協議会」の設置が努力義務となりました ～コミュニティ・スクールがもっと身近に～

学校運営に保護者や地域住民が参画する「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度、以下CS)」について規定している「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が、平成29年3月に一部改正されました。

改正前の法律では、学校運営協議会を「置くことができる」とされていましたが、今回の改正により「置くように努めなければならない」と定められました。いわゆる努力義務化です。

こうした国の動きを踏まえ、本県においてもCSに対する取り組みを、一層強化・充実することが求められています。

これまで、文部科学省が示すCSを踏まえつつ、県内で積み上げられてきた学校と地域との連携の実践を「しずおか型」CSとして定義付け、その普及・啓発を図ってきました。

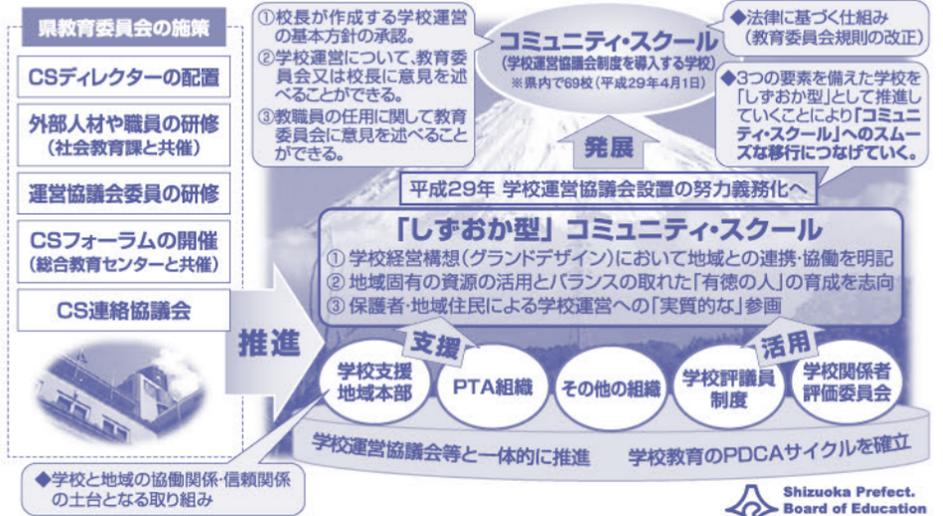
今回の法改正に当たり、今後、「しずおか型」CSが一層充実するとともに、学校・地域の信頼関係が着実に構築され、法に規定されている「学校運営協議会」の設置が県内各地で進むことが期待されます。

これまでの地域社会との連携の実践を生かし、持続可能な「地域とともにある学校」づくりをこれからも進め、社会総がかりで子どもたちを育てていきましょう。

【義務教育課】

「しずおか型」コミュニティ・スクールの推進 平成29年度版

※これまでの地域社会との連携の実践を生かし、持続可能な「地域とともにある学校」づくりを推進



Shizuoka Prefect. Board of Education

「自立と社会参加」を目指して 知的特別支援学校高等部における進路を見据えた学習

県立の知的障害特別支援学校では、「自立と社会参加」を目標に、小学部から高等部までの児童生徒が12年間学んでいます。中学校から新たに、高等部に入学する生徒もたくさんいます。高等部卒業後の進路は、企業等への就労、将来の就労につなげる就労支援施設や日常生活上の支援を主とする生活支援等の施設への通所・入所などさまざまです。

★授業での学び「作業学習」

高等部では、さまざまな作業活動を通じて、国語や数学、社会、理科などの教科等を合わせて学習する「作業学習」を授業の中心に据えています。



作業学習(皮工芸班)の様子

生徒たちは、一人一人の課題や目標に合わせた活動を通して、「自分にもできる」という達成感や仲間と共に取り組むことの喜びを感じたり、生産から消費への流れを理解したりすることで働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要なことを学びます。

縫製、陶芸、農耕、木工、紙工、皮工芸など、各学校では生徒の障害や発達 の程度に合わせた特色ある作業活動を行っています。

★産業現場等における実習「現場実習」

生徒たちは、卒業後の生活を実際の現場で体験して学ぶため、年に2回程度「産業現場等における実習(現場実習)」を行います。現場での就業体験期間中は作業だけでなく、通勤の方法、コミュニケーションの取り方、休憩時間の過ごし方など、働く人として必要なスキルやマナーも学び、卒業後の進路につなげます。



現場実習の様子

★進路希望の100%実現を目指して

各学校では生徒や保護者の希望を尊重しながら、生徒が主体的に進路を選択・決定できるように、一人一人に応じたきめ細やかな進路指導を行うことはもちろん、地域の労働や福祉、保健等の関係機関と支援目標や生徒の実態、支援内容についての共通理解を図っています。

平成28年度は、高等部卒業生のうち82.5%が年度当初に希望した進路を実現することができました。今後も、生徒自身や家庭、学校、関係機関の協力の下、進路実現率100%を目指していきます。

【特別支援教育課】

「親学講座」の開催をお願いします!

「静岡県家庭教育支援条例」が制定されて3年が経ちました。家庭教育を支援する輪が社会全体に広がってきています。児童相談所の相談件数は過去最多となり、社会総がかりで保護者を支援することがますます求められています。

家庭教育支援を、家庭教育の学びを、全ての保護者に届けるため、ぜひ、学校の就学時健診や入学説明会、入学式等で「親学講座」の開催をお願いします。

なお、講座を行う際は、市町教育委員会に在籍する家庭教育支援員をご活用ください。支援員は親としての学びを支援するスキルを持つ方たちです。支援員の派遣は、市町家庭教育担当者にご相談ください。



「小学生版家庭教育クリアファイル」

県教育委員会では、家庭教育の大切さを伝えるために「家庭教育クリアファイル」を、平成30年度に入学する小学1年生と中学1年生の保護者に配布します。小中学校での親学講座等でご活用ください。

【社会教育課】

「今年もいろいろありました…」 モンゴル高校生交流団だより

8月8日から12日まで、本県の高校生交流団25人がモンゴル国を訪問しました。高校生交流団の訪問は今回で4回目です。本県と友好関係にあるドルノゴビ県(ゴビ砂漠の東側)と首都ウランバートルが主な目的地です。



出発前、川勝知事から激励のお言葉をいただきました

本来ならば、8月7日に富士山静岡空港を出発する予定でしたが、迷走した台風5号の影響により8日出発となり、その結果、ウランバートルからドルノゴビ県までの450キロを列車ではなくバスで移動することとなりました。

飛行機6時間、バス10時間の移動で、宿泊先のゲルキャンプに到着したのは現地時刻の午前1時だったにもかかわらず、ドルノゴビ県の高校生は私たちを笑顔で出迎えてくれました。

★モンゴルの大自然を感じる!

日本では決して得られない体験ができるのも、この訪問の大きな魅力です。どこまでも続く大草原と移動中のいわゆる「草原トイレ」、らくだに乗っての散歩、モンゴル式テント住居であるゲルでの宿泊。圧倒的なスケールの大自然の中の体験は、参加者の人生観を変えるほどの力があります。

★高校生同士の交流!

参加者は、モンゴルの高校生との交流を一番楽しみにしていましたが、実際は、その期待を大きく超えるものでした。

ドルノゴビ県では、丸2日間、7人の高校生が寝食を共にしてくれました(到着時に私たちを出迎えてくれたのもこの7人です)し、学校を訪問した際には、伝統的な音楽や舞踊に加えて、「北国の春」や「マル・マル・モリ・モリ!」を日本語で歌ってくれました。



モンゴルの高校生と「We Are The World」を大合唱しました

本県の高校生は、筋肉痛に苦しみながら練習した「ソーラン節」を披露し、最後に歌った「We Are The World」は、モンゴルの高校生と手をつなぎ、大合唱となりました。

また、今回から「静岡県高校生文庫」を始めました。参加者全員がお気に入りの本とその紹介文(英文)を持参し、地元の人たちが利用する施設内に作られた特設の本棚に配架してきました。今後の交流の継続により、大きな本棚が日本の本でいっぱいになることでしょう。

★参加者の感想より

「日本との違いはたくさんあった。でも、共通することの方が多く感じた。モンゴルの高校生も自分たちと同じように、音楽を聴いたり、おしゃれをしたり、進路に悩んだり、恋に悩んだりしていた。モンゴルの高校生も同じ高校生なんだと強く実感した」

「モンゴルではたくさんの経験、発見、人と出会えた。この交流事業に参加できたことは私の一生の思い出だ。モンゴルが大好きだ。絶対にまたモンゴルへ行く!」

★モンゴルからの訪問!

相互交流として10月16日から23日まで、モンゴルから高校生50人が静岡を訪れます。

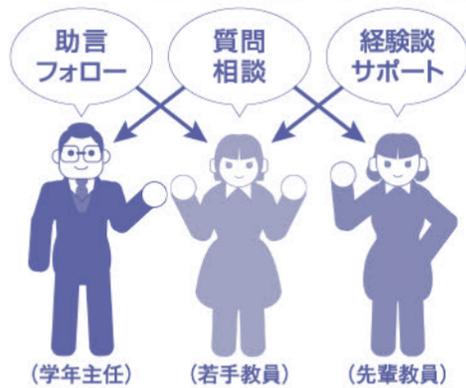
【高校教育課】



「仕事」を「学び」に! “学び合い、高め合う教職員集団”を目指して

これからの教職員研修においては、新たな教育課題に対応するため、職場内外の研修をより一層効果的・効率的に行うための体制整備が求められています。中でも仕事を通じて、能力開発・職能成長を目指すOJT(On the Job Training)の充実・活性化が重視されています。

OJTは今ある「組織」や「時間」を活用して、すぐに始められます!



Q いつ、どこで、なにをする?

- A** 例えば学年団での若手の成長支援のために
- 学校行事で.....仕事を任せてフォローする
 - 生徒指導で.....コツを伝授して指導を見守る
 - 学年会議で.....若手に意見を求める
 - 日常生活の中で.....笑顔であいさつ・温かい声掛け
 - いつでもどこでも.....若手を温かくサポート

支援とは?

- 業務支援: 仕事を教える
- 精神支援: やる気を引き出す
- 内省支援: 気づきを促す

※先輩と若手のこのような関わりを「メンタリング」といいます。OJTを推進する有効な手法の一つです。

期待できる効果

- 若手層の成長
- 中堅層のリーダーシップ向上
- 世代を超えた交流の活性化
- 協働性の向上

【専門支援部研修課】

あすなろ夢講座21 「有徳の人」づくり講演会

全国大会 最多(29回)金賞受賞!
吹奏楽界の有名顧問が登場!!

講師 丸谷 明夫 氏
演題 「子どもに
音楽の機関車を」

吹奏楽界の超名門校、大阪府立淀川工科高等学校吹奏楽部顧問 丸谷 明夫 氏を講師としてお招きします。



- 会場 グランシップ 中ホール
- 日時 平成29年12月1日(金) 18:00~19:50 (受付:17:20~)
- 定員 800人(定員になり次第締め切ります)
- 申込み 「あすなろ夢講座21申込み」、氏名、連絡先を明記し、往復はがき、FAX、Eメールのいずれかでお申し込みください。

問 総合教育センター

TEL0537(24)9715 FAX0537(24)9748

Eメール kouza@manabi.pref.shizuoka.jp

〒436-0294 掛川市富部456

詳細は「まなぼと 静岡」で検索 [まなぼと 静岡](#) 検索



~“ふじのくに”の先生になりませんか~ 中学生・高校生のための教職セミナー

学校の先生って、どんな1日を過ごしているんだろう?
先生になるための進路先は...? どんな勉強をしていけばいいの!?
先生の仕事のおもしろさって...!? 先生になってよかったと思ったことは...?

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の“先生”になりたい人は集合!

- ★東中西の3会場で日曜日に実施!会場を選んで参加できます。
- ★若手教員や養護教員が「夢」や「やりがい」について熱いメッセージを発信します!

- 内容 (1) 県内の各学校、教員と養護教員の採用試験について
(2) 教員免許の取得方法について
(3) 教員、養護教員等の仕事内容について
(4) パネルディスカッション

地区	会場	日時
東部	静岡県立三島長陵高等学校 視聴覚室(三島市文教町1-3-93)	平成29年 11月5日(日) 午前9時30分 ~正午
中部	静岡県庁別館2階第1会議室(静岡市葵区追手町9-6)	
西部	静岡県立磐田南高等学校 同窓会館(はぐま会館)(磐田市見付3084)	

○申込方法

参加申込書を在学する学校に提出するか、下記住所に送付してください。(参加申込書はホームページからダウンロードできます)

○申込締切 10月16日(月)

問 静岡県教育委員会

義務教育課 TEL054(221)3105 高校教育課 TEL054(221)3118 特別支援教育課 TEL054(221)3150

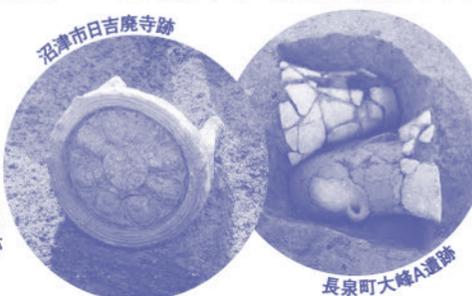
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 HP <http://www.pref.shizuoka.jp/kyouiku/kk-060/saiyo/syokuin-saiyou.html>



遺跡調査報告会 「ふじのくにの原像をさぐる」参加者募集!

静岡県内4遺跡の最新の発掘調査成果を報告します。調査担当者が語る、ここでしか聞けない情報が満載です。

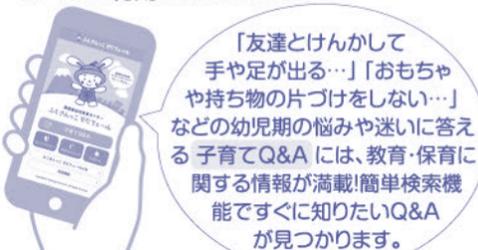
- 開催日 平成29年11月5日(日)
- 会場 静岡県立美術館講堂(静岡市駿河区谷田53-2)
- 定員 200人(当日受付先着順)、参加無料
- 日程 13:00 受付
13:30 開会
13:35 「土器がザクザク縄文時代中期後半の集落」長泉町 大峰A遺跡
14:05 「古代スルガの中心を示す寺院跡」沼津市 日吉廃寺跡
14:45 「よみがえる出世城の雄姿」浜松市 浜松城
15:15 「宝永火山灰に埋もれた畑跡」小山町 湯船城跡
15:45 質疑応答
16:00 閉会



問 埋蔵文化財センター TEL054(385)5500
Eメール maibun_tyosa@pref.shizuoka.lg.jp
HP <http://www.smaibun.jp/>

静岡県幼児教育センター発のスマートフォンアプリ! ふじさんっこぞだてメール

子育てQ&A お役立ちリンク お知らせなどがご利用いただけます。



「友達とけんかして手や足が出る...」「おもちゃや持ち物の片づけをしない...」などの幼児期の悩みや迷いに答える子育てQ&Aには、教育・保育に関する情報が満載!簡単検索機能ですぐに知りたいQ&Aが見つかります。



問 幼児教育センター TEL054(221)3287

第24回 エンチョー DIY グランプリ

作品募集

- ①DIYリメイク(デコレーション)部門
- ②DIY一般部門 ③DIY女子部門
- ④DIYジュニア部門 ⑤DIY学生部門
- ⑥夏休み工作大会部門

今日からはじまる。
made in わたし

DIYリメイク(デコレーション)部門
新設!

2018年2月予定 エンチョーDIY祭り内にて作品展示会・表彰式開催!! 会場:ふじさんめっせ

応募期間 2017年 10/31まで

主催/株式会社エンチョー 後援/静岡県、社会福祉法人静岡県社会福祉協議会、静岡県教育委員会、あさひテレビ、テレビ静岡、静岡第一テレビ、K-mix、静岡新聞社・静岡放送(順不同)
夢をカタチに 創るよるこび <http://www.encho.co.jp/> エンチョー 検索